

五月ウマチー

旧暦五月十五日に行われる五月ウマチーは、稲穂が始めるころの頃に、稲の生長を祈願するために、稲の生長を祈願する。六月ウマチーと並ぶ、重要な行事の一つです。

かつて、十五日をはさむ三〜四日間は物忌みといって、女性は針仕事などをしてはならず、男性は農作業で下肥を取り扱うことなどが禁じられていました。この期間は、身体を清め、けがれを避け、初穂の実りを願う期間でした。

ほとんど稲作がおこなわれなくなった現在でも、一部の字では五月ウマチーをおこなっています。今回は、棚原の五月ウマチーの様子をご紹介します。

五月ウマチーは、旧暦五月十三日のウタカビ（お崇べ）と呼ばれる儀礼から始まります。ウタカビをする五月十三日は、ウマチーの準備を始める日で、棚原では「五月ウマチーの準備をします。」の拌みのあと、ミルクガナシや聖地に供えるためのジンス（神酒）を作り始めます。

ジンスとは、米を固めのおかゆくらいに炊いて蒸らし、冷ました後、石うすで数回ひいて、数日間、発酵させた米のお酒で、旧五月十三日から十五日までの三日間かけて作ります。

旧五月十五日、区長さんが区を代表して大殿内門中や神ガーを拝みました。午後三時五十分、区長さんが五月ウマチー開始の合図である鐘（棚原公民館在）を鳴らすと、各門中の代表が、続々とノロ殿内に集合し、ミルクガナシを拝みます。その後、皆で殿（トゥン）と殿小（トゥングワー）に向かい、それぞれ拌んだあとに、皆でジンスを飲み、五月ウマチーは終了します。ジンスは、お米の香りがするヨーグルトのような味で、かすかにお酒の味がする不思議な飲み物です。



トウングワーでの御願